

第4回 at! おぢや 午前ワークの進め方

1. 目的：屋根（ルーフ）をデザインする視点を見出す

市民が広く、深く共感できる屋根（ルーフ）をデザインするにあたって、市民が自己投影できる「きっかけ」となる思い出深い場所、土地を知る。

2. at! おぢやの活動へのフィードバック

- 活動するコミュニティとして「根」となるものを共有できる。
- 共感値の高い屋根が、将来の複合施設での活動、コミュニティ形成を媒介する。（将来にわたる利用者に対するフィードバック）

3. 共感できる屋根とは

「記号的である」（記号性）こと、「土地を代表している」（代表性）ことよりも、「土地にまつわる住民の記憶と関連づけられること」（共感性）をもって共感できることと考える。

4. グループワークにあたっての留意点

グループワーク内でメンバーが、市民が自己投影できる共感性のある何かを見つけることは難しく、個々の思い出を共有し、共感することを繰り返すことを目指す。

5. タイムテーブル

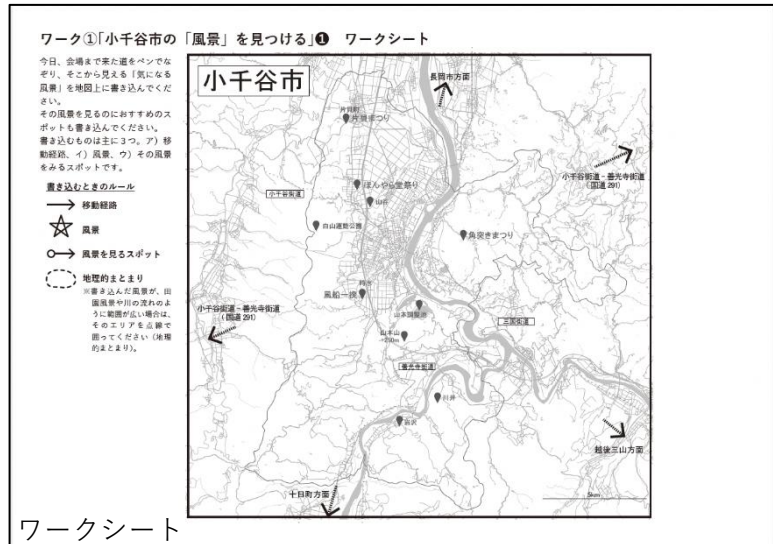
事業説明	10:15-10:25
全体オリエンテーション	10:25-10:30
設計検討プロセス及び内容の説明	10:30-10:50
午前グループワークの説明	10:50-11:00
ワーク①「小千谷市の「風景」を見つける」① [各グループ]	11:00-11:10
ワーク②「小千谷市の「風景」を見つける」② [各グループ]	11:10-11:30
(休憩 5 分間)	
ワーク③「敷地周辺の「思い出」を語る」 [各グループ]	11:35-12:15

6. 各グループワークの進め方

グループワーク①：小千谷市の「風景」を見つける①

目的：地図上で思い出深い風景を見つける練習をする。市内に点在する風景、場所を思い出とともに可視化し、重ね合わせることで集成的な風景、場所の認識や記憶を抽出する。

- ・ワークショップ当日、家からサンプラザまでの移動ルートを地図に書き込み、そのルート上に見える風景を書き込む。
- ・その風景を見る好きなスポットも書き込む。視点と視線を地図に書き込む練習。
- ・練習なので、あまり時間をかけすぎない。書き込めた方から順次ワーク②に移る（発表はしない）。



☆氏原の説明は②について行います。そのための練習として、「今日の移動してきた道路上から見える風景を探しましょう。」と言いますので、テーブル毎が説明をしてください。

☆会場近郊にお住まいの方には中心市街地に限定した地図でエクササイズしていただきます。

【記入例】

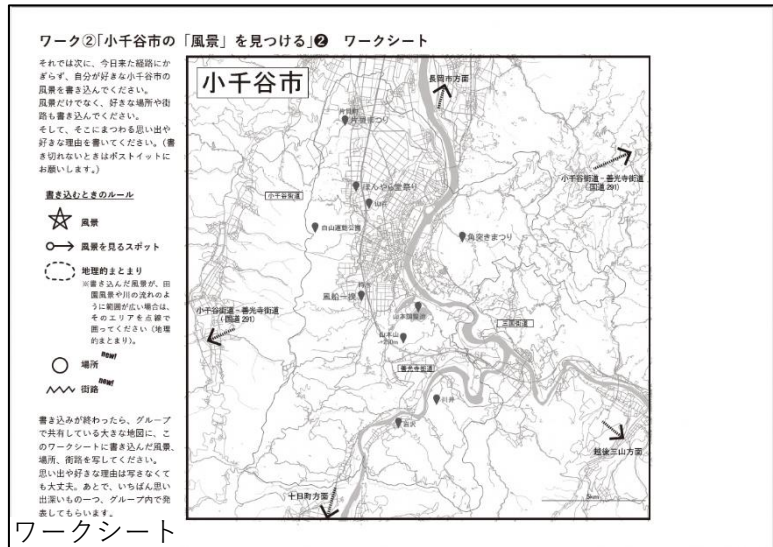
- ・マーカーで移動経路に線を引き、風景に☆マークをつける。（視線の先にあるもの）
- ・風景に面的広がりがあれば点線で囲む。
- ・風景を見るスポットに○をつけ、→を引く。（視点と視線）



グループワーク②：市内の風景とそれに紐づく思い出を見つける②

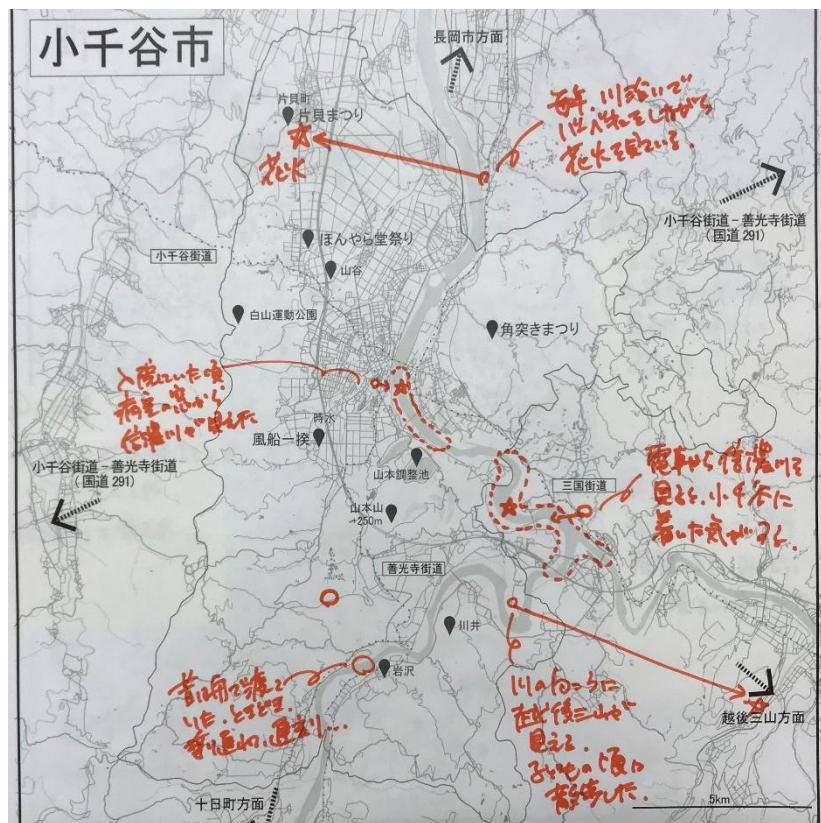
目的：地図上で思い出深い風景を見つける練習をする。市内に点在する風景、場所を思い出とともに可視化し、重ね合わせることで集合的な風景、場所の認識や記憶を抽出する。

- ・移動経路に限定せずに、自分の思い出深い風景、場所、街路を書き込む。
- ・書き込んだ風景等には、その思い出やお気に入りの理由を書き込む。
- ・書き込み終えたメンバーは順次、グループで共有する地図にマークのみ書き込む。(ペンは人毎に色分け)
- ・最後にもっとも思い出深いものを選び、グループ内で共有する。

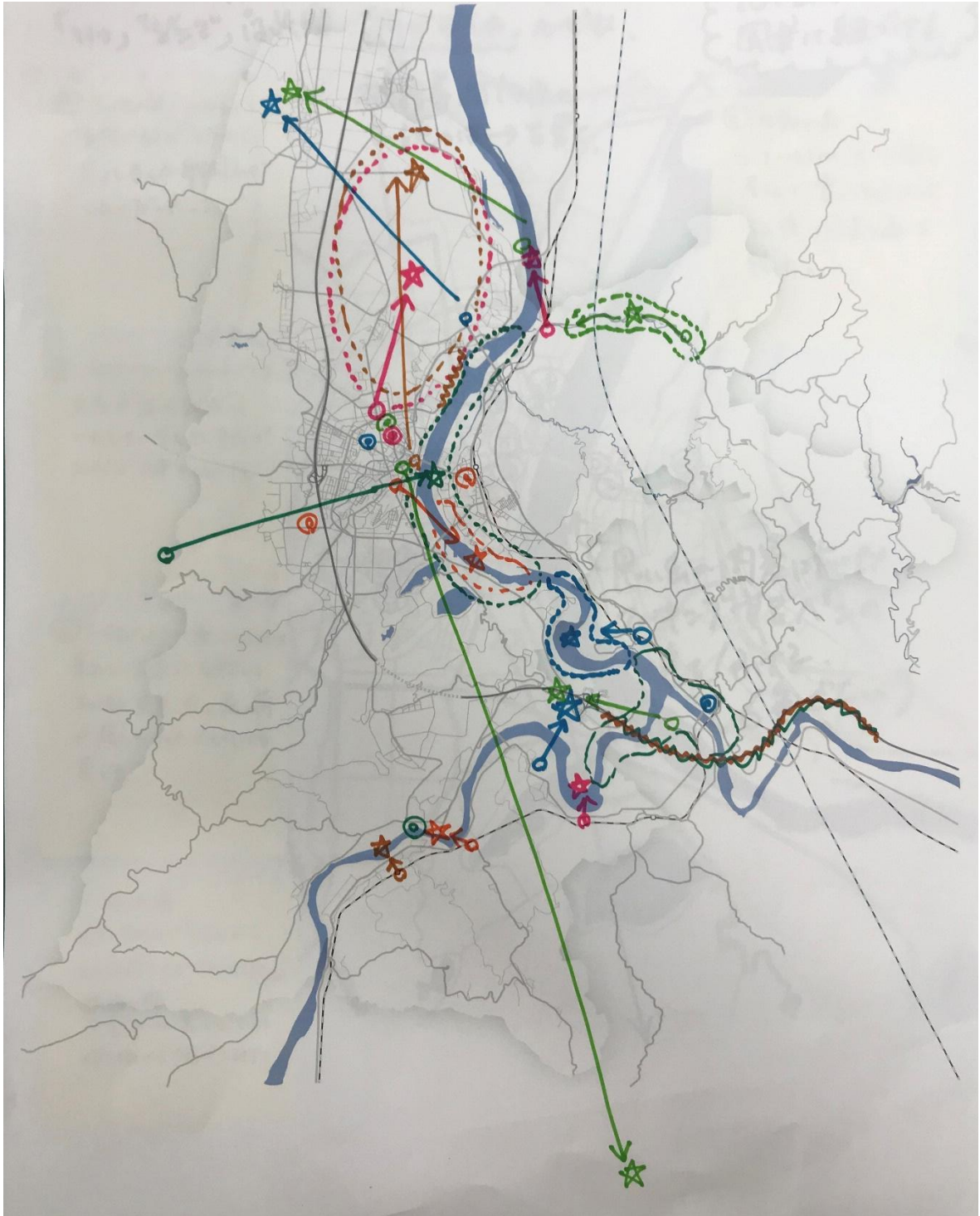


【記入例】

- ・エクササイズのように移動経路を書く必要はない。
- ・風景そのまま、場所と街路が追加されている。
- ・いまはない風景、場所、街路も OK。
- ・全体共有は次のページを参照のこと。



【ワーク①-②のグループでの共有イメージ】（ベース図は異なります）



グループワーク②：小千谷市の「思い出」を語る

目的：敷地周辺の場所やそこから見える風景に紐づく思い出を抽出し、思い出の「溜まり」となっている場所や敷地周辺の視線の方向性を抽出する。

- ・参考シートで、思い出のある場所を想起する。
- ・思い出の内容をポストイットに書き出し、グループで共有する地図に貼る。
- ・ポストイットには「いつ」「どこ」「どんなこと」は必須で、「何が見えたのか」も書く。
- ・ポストイットを貼る際は、6色のペンから思い出に関連する色を選び、その場所に○をつけ、ポストイットと○に番号をふる。



【記入例】 グループで共有する地図のマッピング方法

- ・地図の場所とポストイットの場所が紐づけられるように共有のナンバリングをする。
- ☆6色のペンの色の選び方はメンバーの任意でかまわないですが、当日相談したいです。



7. アフターフォロー

WS 後、2週間程度の時間をとり、思い出深い風景や場所を写真に撮り、メールで収集することをアフターフォローとして行いたい。メールには、その風景等にもつわる思い出も書いていただく。送付先は市（できれば図書館アカウント）が望ましいが、いかがか。

